

■仁科芳雄 物理学者。原子核・宇宙線の分野を先導、世界最大級サイクロトロンを完成も、〈敗戦〉で破壊された。

にしなよしお

帝国議会始・1890＝ 岡山県里庄村で、仁科存生・津禰の四男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 4歳：

新庄尋常小学校、

Bushidou・・1899＝ 9歳：

生石高等小学校を経て、

日露戦争終・1905＝15歳：岡山中学校に入学。

テニス部に所属し、

アヲヲ創刊・1908＝18歳：

伊藤博文暗殺1909＝19歳：5年次には主将もつとめながら、

韓国併合・・1910＝20歳：首席で卒業。無試験で、第六高等学校工科に入学するも、肋膜炎に苦しみ、

大逆事件判決1911＝21歳：1年休学して、郷里で静養すると、

明治天皇没・1912＝22歳：二部(工科・理科・農科)の運動部監督をつとめるとともに、特待生となり、

第一次大戦始1914＝24歳：首席で卒業し、_東京帝国大学電気工学科に入学。

21ヶ条要求・1915＝25歳：岡山県出身学生の寮に入るも、発熱し、留年。

以後、芝城山の次兄の家で過ごし、

ロシア革命・1917＝27歳：

本格政党内閣1918＝28歳：_首席で卒業、大学院に進学と同時に理化学研究所に入る。

大暴落・・・1920＝30歳：研究員補となり、

原敬首相暗殺1921＝31歳：_ヨーロッパに派遣され、ケンブリッジのキャベンディッシュ研究所、ゲッティンゲン大学に留学、

水平社結成・1922＝32歳：ドイツでボルンやヒルベルトの講義を聴いた後、本国での母死去の報で、さらに延長を志し、

関東大震災・1923＝33歳：_コペンハーゲンに赴いてN. H. ボーアの門下に入り、D. コスターとともに希土類とその前後の原子番号の諸元素のエネルギー準位をX線分光学的に測定、ボーアの原子構造理論の希土類の解釈を実験的に証明し、次いでG. ヘベシーのためにジルコニウム鉱石中のハフニウムの定量などに役だつX線元素分析の方法を開発。

日本時代始・1926＝36歳：

金融恐慌・・1927＝37歳：_日本からの留学期限後3年間受けていたラルフ・エルステッド財団の奨学金も終わって、いったんコペンハーゲンを離れたが、前年勃興しはじめた新理論、量子力学を学ぶためハンブルクに留学、

共産党事件・1928＝38歳：*コペンハーゲンに戻って、スウェーデンのクラインとともに、電子による電磁波のコンプトン散乱の断面積を与えるクライン＝仁科の式を導出。アメリカ経由で、7年ぶりに帰国。

世界恐慌・・1929＝39歳：ハイゼンベルクとディラックの来日に際して、その理論の紹介に努める。

満州事変・・1931＝41歳：*理化学研究所で研究室主任となり、理論物理学、原子核および宇宙線の研究の分野で、朝永振一郎、嵯峨根遠吉らを擁する大きな学派を育てる。

五一五事件・1932＝42歳：原子物理学研究会を結成。

芥川直木賞始1935＝45歳：朝永らと電子対発生の研究発表。

日中戦争始・1937＝47歳：_C. D. アンダーソンと独立に宇宙線中に μ 粒子を発見。磁石の重さ23tのサイクロトロンを完成。ボーアが来日、その理論の紹介に努める。

日米開戦・・1941＝51歳：

・・・・・1942＝52歳：海軍技術研究所が物理懇談会を設け、その委員長。

年金+総武装 1944＝54歳：_さらに、200tのサイクロトロンを完成させた。

敗戦・・・1945＝55歳：_被害調査のため広島へ入り、“新型爆弾”は原子爆弾と発表。戦後、サイクロトロンはアメリカ軍に破壊撤去された。

新憲法公布・1946＝56歳：*理化学研究所の所長に就任。文化勲章。

極東裁判判決・1948＝58歳：_解散を命じられた研究所を救うために、株式会社科学研究所に改組し、その社長としてペニシリンの国産化に先鞭をつけるなど、国の経済復興にも寄与。

三大事件・・1949＝59歳：_日本学術会議副会長として国際学術連合会に出席(戦後初の国際会議正式出席)するなど、日本の国際社会への復帰に大きな役割を果たし、原子力平和利用の一つとして、アメリカの原子炉で生産される放射性同位元素の輸入およびその応用の普及につくして、

独立回復・・1951＝61歳：肝臓癌のため_没した。